



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年02月14日 第1056号「週刊五十嵐レポート」

## 逃げるは恥だが役に立つ

2月1日付各新聞は、「セブン、そごう・西武売却へ」という記事。セブン&アイ・ホールディングスが不振が続いていた百貨店事業を切り離し、海外を中心に成長を見込むコンビニ事業に経営資源を集中する。国内で百貨店やスーパー、専門店等様々な流通業態の「総合小売り」路線は転機を迎える。

「逃げるは恥だが役に立つ」はハンガリーの諺で、「勝負すべきところを逃げたり、退いたりするのは恥のようだが長い目で見れば得策」ということを伝える。長年ハンガリーは周辺の大国に翻弄されてきた。そこから競争の精神が形成されてきた。国民は自分の選んだ分野で卓越し、様々な分野で世界をリードする土壌が培われた。(プレジデントオンラインを参考)

2月9日付朝日新聞、「逃げる、その先に」でヨシダナギ氏が寄稿。「ずっと逃げてきた結果、現在の私がある。逃げることは『ここではない、どこかへ行く』』という意思であり、行動である。負けても大丈夫。人には得意な分野がある。得意な分野で勝負し、そこで勝てばいい、苦手な分野は逃げようという考え方。ここだけは負けられないというところはトコトンやる。そのかわり、ダメだと思ったら即逃げる。そうした方が次の道につながると思う」。

ある業界の中小企業は4つの事業を持っている。仮にA事業、B事業、C事業、D事業。A事業が高収益部門で次にB事業が黒字。C事業は赤字で、D事業は黒字化の目途が現在立っていない。物言う株主がいたら、A、B事業だけ残し、C、D事業は撤退せよと言うだろう。経営戦略を学んでいる社長の右腕は、C事業を調べてみると、他社との差別化されているサービスがあることに気づいた。しかし、それが顧客にきちんと価値を伝えていない。そこを一つひとつ行動に移せば、結果(黒字化)は出てくると判断。問題児のD事業は黒字化のスキームができるか否か模索中である。

中小企業の場合、本業は黒字になっているが、関連事業では赤字で足を引っ張っているところを見かける。社長の趣味でやっているケースがある。正しくは「道楽」。従業員はたまったものではない。

ハンガリーの「競争精神」を見習い、「逃げ恥」も勝つための選択。

ちょっと  
気になる出来事

2月13日付朝日新聞、脳研究者の池谷裕二氏の話「受験する君へ」。

脳は情報の入力と定着を同時にできない不器用なところがある。寝ない、情報を整理整頓する猶予が与えられない。特に寝る直前に勉強した内容は記憶の定着がよくなる。

昼間でもボーッとすることがある。あの瞬間、実は脳が整理整頓している。休憩時間にゲーム、テレビ、音楽でリラックスしたくなるが、この行為は入力モード。ただひたすらボーッとする。寝ることと同じ効果がある。

入力した内容を思い出すプロセスも重視。古代からさまざまな勉強法があるが、出力による定着に勝る方法が今のところ見つかっていない。

出力は記憶の定着だけでなく緊張への耐性を生む。ピアノで言えば、頭の中に入っている音楽を指を通じて形作る。コンクールの本番では緊張し、頭が真っ白になっても弾ける。出力の練習をしているから。

なるほど、頭がボーッとしているのは、情報の整理整頓をしているのか。そのときは余計なことはしてはいけない。面白い。



一口メモ  
知識

## 万物に陰陽がある

動静常にありて、剛柔断(さだ)まる。

天では日月星辰(じつげつせいしん)が動き、地は静止して動かない。天は陽差しを注ぎ、雨を降らせ、地はそれを受けて万物を育成する。

「剛」は陽、「柔」は陰に配当される。このように易経は、天と地の性質をもとにして、万象を陰陽に判別するものである。

※日月星辰(じつげつせいしん)、日月は太陽と月、星辰は星。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

榎五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5  
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

